

南方の音・声・歌

2014年11月29日(土)午後2時～
ギャラリーGALA

[講師]

船木拓生(劇作家)

音は波動によって伝わる。伝えるためにはモノがなければならない。例えば空気、水、木質、身体。声は音の一種で、生物も、動物の器官が振幅して発する各個特有の音であり、生命活動の一環だ。歌は抑揚を付けた声であり、声に歌を聞くのは人間だけかもしれない。

聞くのは五官のうちの聴覚だ。波動は耳だけではなく、振動として触覚も感覚する。そして人間は植物、さらには無機物にも声を聞き、さらに歌を聞く。例えば「森の歌」、「岩の声」、「落日の音」等。これはあまい声(味覚)、くさい音(嗅覚)、暗い音色(視覚)などと同じで、ことばの修飾機能すなわち形容であり詩的比喩か。しかし、「沈黙を聴く」は実体験だ。「モノとしての音」もまた感覚体験に近い。

絶対音は「モノとしての音」を目ざしつづける。目ざすから律(規矩)を持つ作曲、作譜が原理的に可能になり、指揮(解釈)は恣意を越え、演奏にも厳密に正誤が成り立ちうるに違いない。

外界に向けて五官を弛緩させ、心身を無防備にさらしていられるのが南方だ。半醒半睡の心地で体感できる南方系の音声源を九つ、合わせて四十分ほどを集めてみた。海や陸地がそうであるような未分化の混合状態としての音宇宙だ。音が声となり、そしてことばとして成立するときに必要な条件(発音、語彙、文法ほか)がこの混沌中にたゆたっている。

会費

カンパ制(任意)

場所

ギャラリー GALA
世田谷区梅ヶ丘 1-26-5-2F(小田急線梅ヶ丘駅南口徒歩1分)
<http://www.gala-fudoki.com/>

参加連絡

050-7542-2018(稲垣一雄)
080-5085-2477(橋爪太作)
info@tokarajuku.sakura.ne.jp

主催

文化結社トカラ塾(<http://www.tokarajuku.sakura.ne.jp/>)

